

時事解説

インド農薬市場の動向

BASF ジャパン株式会社 グンジン ビシュト メ タ ぐんじま こうし
Gunjan BISHT MEHTA・郡嶋 浩志

はじめに

インドの国土面積は約 3.3 億 ha で日本の国土面積の約 87 倍である。またその人口は 2023 年に約 14 億人となり、中国を上回って世界最多になった。さらに IMF（国際通貨基金）によると、インド GDP は、過去 6 年世界第 5～6 位であったが、2019 年の 2 兆 8689 億ドルから、2024 年には 4 兆 1054 億ドルと大きく数字を伸ばし、第 4 位の日本の 4 兆 2862 億ドルに迫っている。2025 年にはインドは日本を抜いて、アメリカ、中国、ドイツに次ぐ第 4 位に浮上すると予想されている。このように勢いのあるインドだが、本稿ではインドの作物保護市場について紹介したい。

I インドの作物保護市場の概要

インドの農作物の作付け面積は、2019～20 年にかけて約 1.4 億 ha、述べ作付け面積は約 2.1 億 ha で、国土の約 4 割に及ぶ。2011 年に行われた国勢調査での農業人口は 2.6 億人であった。ちなみに日本全国の耕地面積（田畑合計）は、430 万 ha（2023 年）で、農業人口は約 116 万人（2023 年）である。インドは世界第 4 位の農薬の生産国であり、医薬品を除く化学品の輸出国としては 12 位にランクされている。主な輸出先は米国、中国、日本、ブラジルで、農産物輸出金額は 2021 年に 41,585 百万ドル、2025 年までに 8～10% の成長が見込まれている。インド政府はこの分野を世界のリーダーシップを達成するための国内上位 12 の産業の一つとして特定している。

インドの農業および関連事業は、労働力の 50% 以上を雇用し、粗付加価値（GVA）の約 18.4%（2022～23 年）に貢献しており、経済のバックボーンとなっている。インド政府にとって農業関連政策は極めて重要な意味を持つため、農村部の開発や農村部住民の所得問題等を重要

な政策課題とし、「国家農業政策」や「国家農業者政策」を打ち出して、農業従事者の所得向上などを図ってきた。

しかしながら、農業に従事する人の 8 割以上が耕作面積の小さい小規模農家とも言われており、大規模かつ効率経営が進んでいる米国の一経営体当たりの耕作面積が平均で 180 ha、日本が 3 ha であるのに対し、インドはわずか 1 ha である。

インドの多様な気候は、様々な作物を栽培するために適した環境であり、栽培作物は、穀類、野菜、果樹、商品作物など多様である。参考として表-1 に主要作物の面積と生産量を示す。一方、その気候多様性は病害、害虫、雑草などの大きな被害を生む原因にもなっている。インド政府の統計によると毎年病虫害・雑草による被害額は Rs.90,000crores（約 1.53 兆円）と推定されている。大まかに見積もっても、毎年 20% 以上の作物が病虫害・雑草によって被害を受けている。表-2 に主要作物の病虫害の抜粋を示す。（注：Rs = ルピー、1 ルピー：1.7 円で計算）

II インドの農薬市場セグメント

図-1 に 2021 年および 2022 年のインドでの農薬市場を示す（バイオスティミュラントを含む）。殺虫剤は、インド国内農薬市場の最大のセグメントであり、全体の 43% 程度を占めている。主にイネ、ワタ、トウガラシの防除に使用されている。植物寄生性線虫による被害は、長年にわたって作物収穫量の減少を引き起こす要因の一つとして問題視され始めている。除草剤は、今後成長が見込まれる最大のセグメントであり、現在は農薬市場の 22% を占めており、主な対象作物はイネ、ダイズ、トウモロコシ、サトウキビが大部分を占めている。農業就労者の人件費上昇傾向は、今後、除草剤の使用をさらに牽引すると予想されている。殺菌剤は、農薬市場全体の 21% を占め、主に果物、野菜、イネに使用されている。換金作物（商品作物）の栽培から果物や野菜の栽培に移行し、インド政府の輸出支援により、殺菌剤の使用量が増加している。生物農薬は、病虫害・雑草の防除に使用できるすべての生物、天然生成物が含まれる。生物農薬

Trends of the Indian Agrochemical Market. By Gunjan BISHT MEHTA and Koshi GUNJIMA

（キーワード：インド農業・農民福祉省、インド農業・農民福祉局経済統計部、ジュート）